

# 平成25年度 【 学園研究費助成金< B > 】研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ミズノ ヒデオ  
氏名 水野 英雄

研究期間 平成25年度

研究課題名 サービス貿易の促進のための国際観光需要に関する分析

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	水野 英雄	現代マネジメント学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

日本の観光産業は長期的な人口減少の中で、国内需要は限られていることから、海外からの旅行者を増加させることが必要となっている。また、日本の貿易・サービス収支の赤字が恒常化している中で、インバウンドの増加によるサービス収支の改善に期待が高まっている。そのため政府も海外から日本への観光客の増加のための「ビジット・ジャパン・キャンペーン」や、さらにそれを文化面から推し進めた「クールジャパン」を展開し、その成果によって2013年のインバウンドは初めて1000万人を超えることが出来た。

インバウンドのさらなる増加のために、中国の経済成長などアジア市場の動向を踏まえて国際観光需要の分析を行っている。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

国際観光の現状と課題について整理し、インバウンドの1000万人を超えた要因について、国内・海外の経済的要因、政府による観光振興策による要因、観光産業の企業努力による要因について分類して考察した。

また、渡航規制政策の効果、東日本大震災や原子力発電所の事故による影響、領土問題等の外交関係による影響の観点からも分析を行った。

さらには、外国人旅行者の誘致について、今後発展が期待できるクルーズ産業に関して研究を行った。クルーズ産業は世界的に成長が著しい分野であり、観光産業だけでなく寄港地への経済波及効果も大きい。また、特色ある観光として、産業観光についても産業構造や地域振興、教育との関連から研究を行った。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

日本の観光産業はバブル経済期に豊富な資金と余暇時間の充実から大きく発展した。しかしながら、その後の長引く不況のもとで厳しい状況が続き、特に、「安・近・短」(安い・近い・短い)への消費者ニーズの変化から高級志向のホテル・旅館等への需要が減少し、付加価値を高めることが困難となった。さらには長期的な人口減少の中で、国内需要は縮小し、観光産業の発展のためには海外からの旅行者を増加させることが必要となった。

そのため政府は海外からの観光客(インバウンド)の増加のための「ビジット・ジャパン・キャンペーン」や、さらにそれを文化面から推し進めた「クールジャパン」を展開することで旅行者の誘致を進めてきた。具体的には「おもてなしの心」と呼ばれるホスピタリティを強調した宿泊や、健康ブームの中で伝統的な「和食」のユネスコ無形文化遺産への登録や大衆的な「B級グルメ」のような食文化、アニメ等のサブカルチャー、さらには製造業の「ものづくり」による産業観光などの幅広い展開を行った。これらはサービス産業の付加価値を高めるものとなり、「和食」の振興による農産物の消費や輸出の増加のように、それぞれの関連産業への経済波及効果を高めるものとなった。

これらの成果から2013年のインバウンドは初めて1000万人を超えることが出来た。中国をはじめとしたアジア諸国の経済発展は、海外旅行の対象となる所得層の「量」を拡大させ、さらには旅行日程の長期化や高級志向化による「質」の向上にもつながった。今後も量・質ともにインバウンドの拡大が続くことが期待出来、さらなる受入策が必要となる。

具体的には世界的に発展しているが日本では市場規模が小さいクルーズ産業を発展させることが考えられる。クルーズ産業は観光産業だけでなく寄港地への経済波及効果も大きいことから、地域振興にも貢献する。また、クルーズ客船内の快適な施設やアミューズメントは日本人のレジャーへの価値観を変えることも期待出来る。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①サービス貿易	②国際観光	③インバウンド	④おもてなし
⑤観光立国	⑥ビジット・ジャパン	⑦クルーズ客船	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

水野英雄「教育旅行における産業観光の意義と展開－愛知県の産業観光を事例として－」『日本観光学会誌』第54号、日本観光学会、平成25年12月、p.21～34  
水野英雄「少子化による国内市場の縮小とグローバルな展開－アジア市場の「量」と「質」－」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社、平成25年8月15日、p.3  
水野英雄「「クルーズ客船」時代の到来－寄港誘致で大きな経済効果－」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社、平成26年2月27日、p.8  
水野英雄「教育旅行における産業観光の意義と展開－「ものづくり愛知」を「現地現物」で学ぶ－」日本観光学会第103回全国大会発表、愛知大学、平成25年6月22日  
水野英雄「アジアにおけるクルーズ産業の展望と課題－魅力ある寄港地の形成と観光－」日本観光学会中部支部大会発表、椋山女学園大学、平成26年2月20日  
水野英雄「中部地域の観光産業における名古屋港の役割－クルーズ客船による経済波及効果－」日本港湾経済学会中部部会・名古屋港管理組合の調査研究、平成26年度の日本港湾経済学会中部部会の学会誌『港湾研究』への投稿と報告